

すなお

令和3年7月号

中和大教会創立130周年記念祭 執行
令和3年10月10日(日)

*当日は教会長夫妻、おつとめ奉仕者のみでつとめます

おやのことば

楽しんだ理はいつまでも
いつまでも。孫子の代ま
で楽しんでもくれるよう。

明治三十九年十月十日



日々はコロナ禍の中、一生懸命におつとめのこと
ありがとうございます。長い長い道中ですし、まだ
先が見えないので何とも言えませんが、ともかくも
今日一日出来ることを精一杯つとめさせていただき
ましょう。

例年の今頃でしたら、夏のこどもおぢば帰りに向
かい汗をかきながら行進練習をしている頃です。お
互いに暑いのですが、責任者となればそうも言っ
ておられないので「ありがたい！ありがたい！」を連
呼していたように思います。でも、それだから勇ま
せていただき助けて頂いていたのだと思います。こ
れも”人助けたら我が身助かる”の一つの姿と思
います。

最近では県外から教会に帰ってからの自粛生活の合
間に、教会内の営繕関連のひのきしんをさせて頂
いていますが、一人ですることになりますから誰かと
話をするということも無々としています。そうす
ると冗談を言うことも無ければ、勇ませあうことも
ありません。今はやむなくですが、ひのきしんもみ
んなでするのが楽しいものですね。(次ページへ)

会 長

すなお (立教184年7月号)

通 巻 No.732
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2021.7.16
責任者 二宮英治

結構や、結構や（稿本 天理教教祖伝逸話篇から）

慶応4年5月の中旬のこと。それは、山中忠七が入信して5年後のことであるが、毎日々々大雨が降り続いて、あちらでもこちらでも川が氾濫して、田が流れる家が流れるという大洪水となった。忠七の家でも、持山が崩れて、大木が一時に埋没してしまう、田地が一町歩ほども土砂に埋まってしまう、という大きな被害を受けた。

この時、かねてから忠七の信心を嘲笑っていた村人達は、「あのざまを見よ。阿呆な奴や。」と、思い切り罵った。それを聞いて忠七は、残念に思い、早速お屋敷へ帰って、教祖に伺うと、教祖は、

「さあさあ、結構や、結構や。海のドン底まで流れて届いたから、後は結構やで。信心していて何故、田も山も流れるやろ、と思うやろうが、たんのうせよ、たんのうせよ。後々は結構なことやで。」

と、お聞かせ下された。忠七は、大難を小難にして頂いたことを、心から親神様にお礼申し上げた。



神様にお守りいただくために

椿 信代

全国的な大雨で各地で災害が相次いでいます。ここ数年は毎年のように線状降水帯が発生するため、昔のようなしとしと雨が降る梅雨では無くなってしまったように思います。

先日も静岡の熱海で土石流が起き、沢山の人が今も行方不明で捜索が続けられているとのことです。熱海はつい2年前に仕事で訪れたことのある土地だったため、その街が土砂に飲み込まれる映像をととても他人事として見れませんでした。東日本大震災のときのような身の毛がよだつ感覚で、とてつもない自然の力に人間は為す術もないのだとただただ恐ろしく感じました。

普段から最悪の事態に備えて対策をしたり気をつけて過ごすことはもちろん大切ですが、最終的に人の力ではどうしようもないことは神様に守っていただくしかありません。だから毎日おつとめをするんや、日々神様の方へ心に向けて生きなさいと教えていただいています。

私はどうかなと振り返ったところ、最近会長さんへの日参を休みの日に疎かにしがちでした。何のための日参かを考え、欠かさず行うことを心に定めます。

編集後記

いよいよ来週にはオリンピックが開催されます。コロナ禍での開催は賛否両論ですが、良い大会になってもらいたいものです。最近はこどもおちばがえりのDVDを見て、楽しむ時間を作っています。（編集者K）

しかし、大勢で仕事をするとなると今度はそれぞれの心があり、一つの仕事に向かつて一つの心にならなければ逆に大変になってきます。時に（よくもまあ、そんな言葉がでてるなあ）とか（そんな考え方もあるのか）と様々な人との出会いの中で驚くことが時にあります。もちろん、プラス方向への驚きなら嬉しい限りですが、マイナス方向への姿に接すると本当に嫌な気持ちになってしまいます。

となると親神様はそんな人間を作られ、存在を許しているのかということになります。この世は親神様が采配されているのですから、聞き分けの良い人間（子供）ばかりにすれば良かったのに、、ということです。

私は六人兄弟の次男として育ちました。男女三人ずつの六人ですから、心も様々ですし、生まれた順番が違えば考え方も受け止め方もみな違います。それなのに一つの問題に対して出てくる答えが一つだとしたらどうでしょう。もちろん一つです。争いもけんかありません。でも、親とすれば本当に面白いのでしょうか？

昨日、今治市内のショッパーズプラザと大丸百貨店の跡地を見て昔を思い出しました。いつもは気軽に行けるショッパーズプラザに行っていたのですが、その時は何故か会長さん（親会長さん）が「今日は大丸に行く」と言って連れていかれてくれました。車から降りて店内に入ったその時に私はエレベーターの方へ向かいました。当時エレベーターはまだまだ少なくショッパーズには無かったので、心の中で（これは絶

対に乗るしかない）と決めていたのです。しかし、反対意見が出てきました。姉が「私は気分が悪くなるからエスカレーターで上がる」というのです。めったにないチャンスなので譲ることなく言い合いをしていたら、結局上に行くこともなく教会に帰ることになってしまい、お守り所で怒られて終わってしまいました。何とも後味の悪い結末でした。なぜそんなに突っ張ったのかよく分かりませんが、子供の頃はそんなものでしょう。

その時の会長さんの心境などは分かる歳でもありませんが、今振り返ればなんとも申し訳ないことだったと思います。でも、もうそろそろ半世紀も前のような事も忘れずに覚えているのは、そんな失敗があったからです。

テレビのドラマを見ていても思います。次から次へといろんな問題、事故、事件、病気などが起きてきます。何でこんなに、、と思います。これはドラマですからそのドキドキがないと誰も観てくれませんし、ハリウッドのアクションシーンなどは三十秒に一回は何かが起こると言います。

私達の人生もドラマと同じように親神様が種々楽しめるように、さまざまな難問、奇問を作って下さっているでしょう。その問題をどう笑顔で乗り越えて行くかが親神様の楽しみなのではないでしょうか？私の経験上、問題は突然やってきますので、日頃からしっかり心を育て心を見つめて難問、奇問を無事に乗り越えて下さい。